

2024年3月期(第52期)
第2四半期
決算説明会

2023年11月10日
株式会社日本エム・ディ・エム
代表取締役社長 弘中 俊行

JMMDM



JMMDM

将来の見通しに関する記述

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社の主要製品



人工股関節



人工膝関節



骨接合材料



脊椎固定器具

-目次-

1 . 2024年3月期 上半期業績結果	2 . 2024年3月期 通期業績予想
- 連結売上高 P. 5	- 通期業績予想(前回予想vs今回予想)対比 P.19
- 連結損益計算書 P. 6	- 営業利益比較分析(前回予想vs今回予想) P.20
- 前年同期営業利益比較分析 P. 7	- 連結損益計算書(前年同期比) P.21
- 主要品目別連結売上高 P. 8	- 主要品目別連結売上高 P.22
日本市場	- 下半期の重点施策 P.23
- 日本国内売上推移【前年同四半期比較】 P.10	3 . Topic
- 日本国内売上【人工関節】 P.11	- 再生医療分野(膝関節)に参入 P.25
- 日本国内売上【骨接合材料】 P.12	
- 日本国内売上【脊椎固定器具】 P.13	
米国市場	
- 米国売上 P.15	
- 米国売上推移【前年同四半期比較】 P.16	
- 米国売上【人工関節・製品別】 P.17	



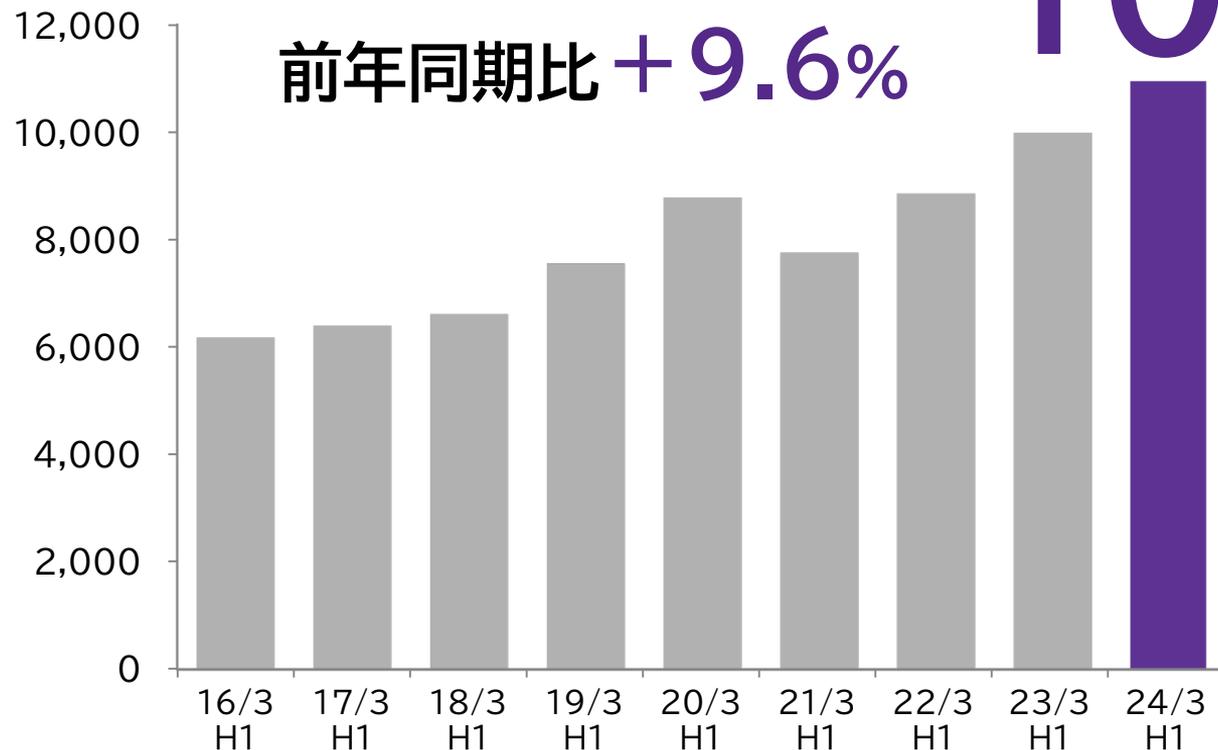
1.

2024年3月期 上半期業績結果



連結売上高

(単位:百万円)



前年同期比 +9.6%

109 億円

* 収益認識基準適用後

上半期
最高売上高
更新

前年同期比
日本 + 5.6%
米国 + 15.3%

* 円換算後

連結損益計算書

(単位:百万円、%)	2024年3月期 H1		前年同期比増減		2023年3月期 H1	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	10,952	100.0	+962	+9.6	9,989	100.0
売上原価	3,928	35.9	+558	+16.6	3,370	33.7
販管費	6,405	58.5	+713	+12.5	5,691	57.0
営業利益	617	5.6	▲ 309	▲33.4	927	9.3
経常利益	632	5.8	▲ 283	▲31.0	916	9.2
四半期純利益*	359	3.3	▲ 361	▲50.1	721	7.2

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

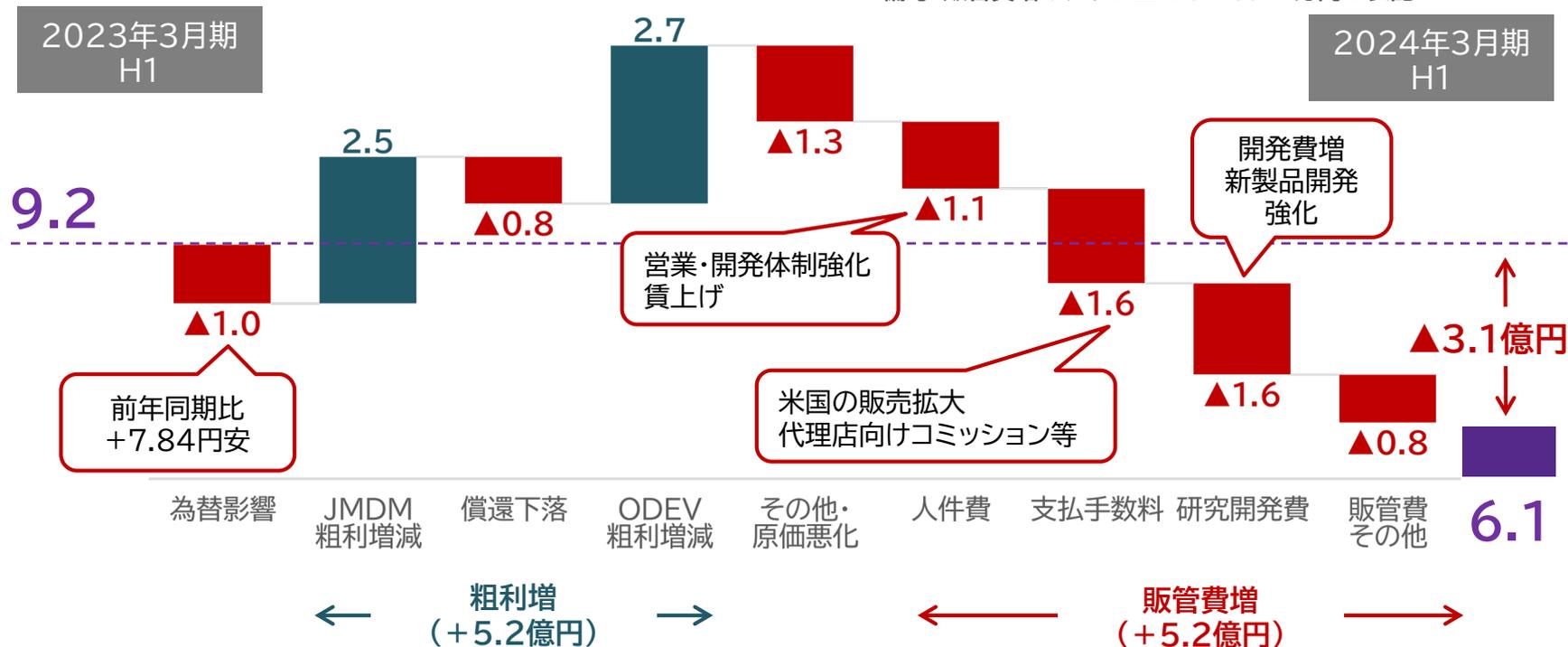
前年同期営業利益比較分析

営業利益
▲3.1億円

- 円安進行、償還下落による営業利益悪化(▲1.8億円)
- 売上増による粗利増(+5.2億円)、原価悪化・その他(▲1.3億円)
- 販管費増加(▲5.2億円)

2023年3月期上半期～2024年3月期上半期 営業利益:増減分析(単位:億円)

備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記



主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	2024年3月期 H1		前年同期比増減		2023年3月期 H1	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上	6,129	56.0	+324	+5.6	5,805	58.1
人工関節	2,361	21.6	+135	+6.1	2,226	22.3
骨接合材料	2,059	18.8	+137	+7.1	1,922	19.2
脊椎固定器具	1,635	14.9	+38	+2.4	1,596	16.0
その他	183	1.7	+6	+3.9	176	1.8
小計	6,240	57.0	+318	+5.4	5,921	59.3
売上控除*3	▲110	▲1.1	▲5	-	▲116	▲1.2
米国売上*1	4,823	44.0	+638	+15.3	4,184	41.9
人工関節	4,806	43.9	+639	+15.3	4,167	41.7
脊椎固定器具	16	0.1	▲0	▲3.0	17	0.2
合計	10,952	100.0	+962	+9.6	9,989	100.0
自社製品売上高	8,866	80.1	+747	+9.5	8,118	80.3
USDベース*2	34,132		+2,781	+8.9	31,351	

*1 期中平均換算レート(円/USドル)

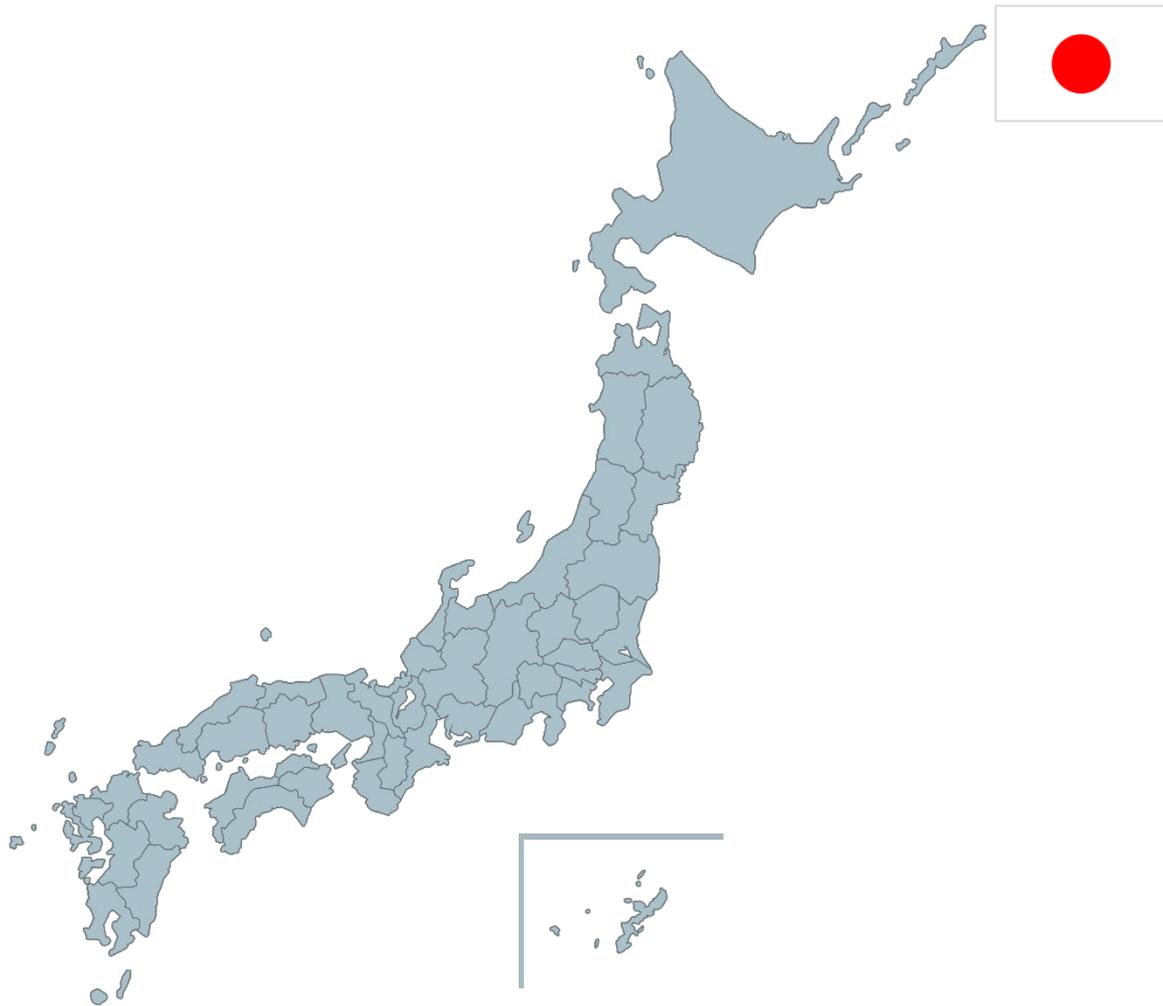
141.31

+7.84

133.47

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除。

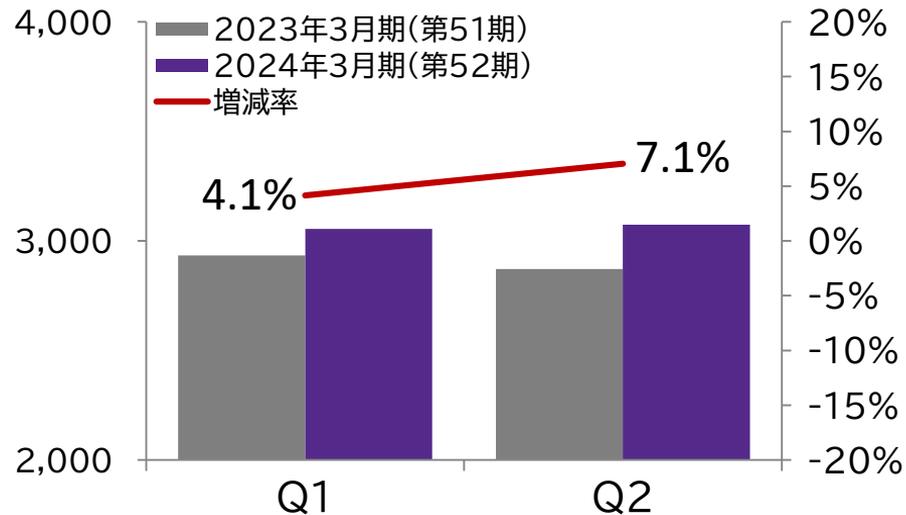
日本市場



日本国内売上【前年同四半期比較】



(単位:百万円、%)



新型コロナウイルス感染症
5類変更(2023年5月)
症例数増加

日本国内売上高
堅調

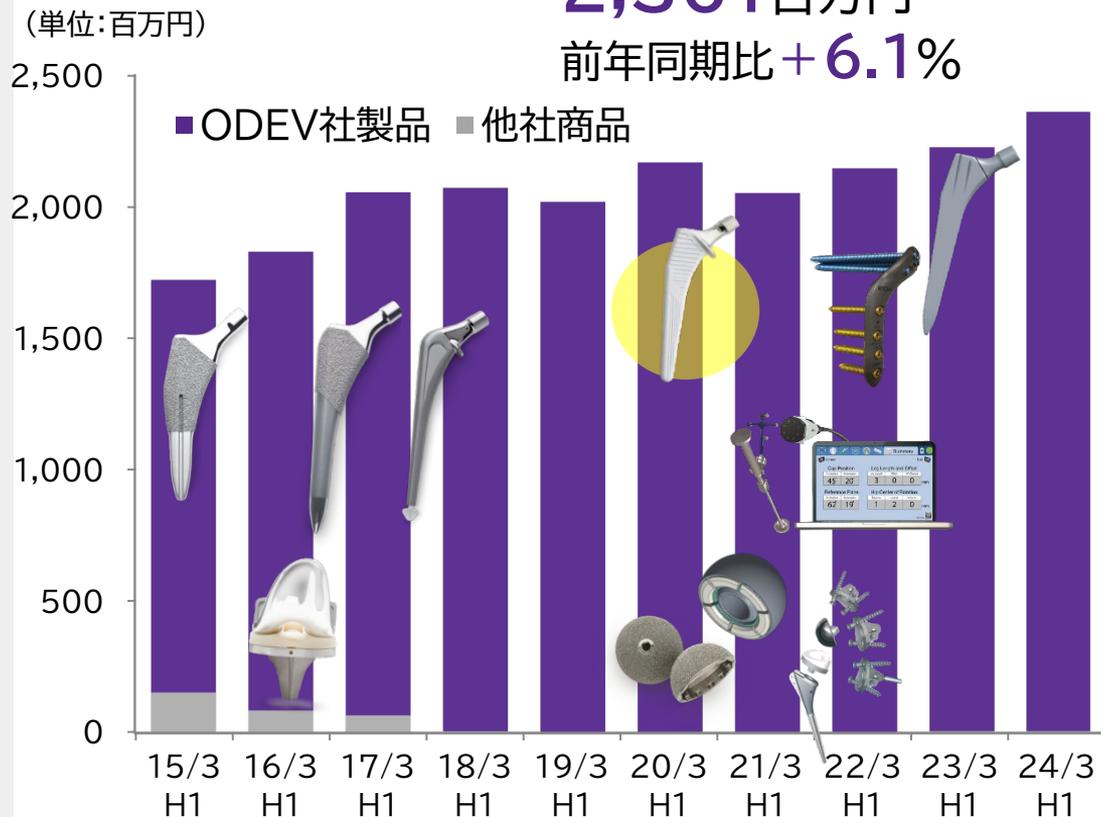
Q2 > Q1

会計期間	Q1	Q2	Q3	Q4
23.03	2,933	2,871	3,175	3,376
24.03	3,055	3,073	-	-
増減率	+4.1%	+7.1%	-	-



THA*1 堅調 TKA*2 好調

2,361百万円
前年同期比+6.1%



・症例数増

新型コロナウイルス感染症の
5類への変更

・2桁成長

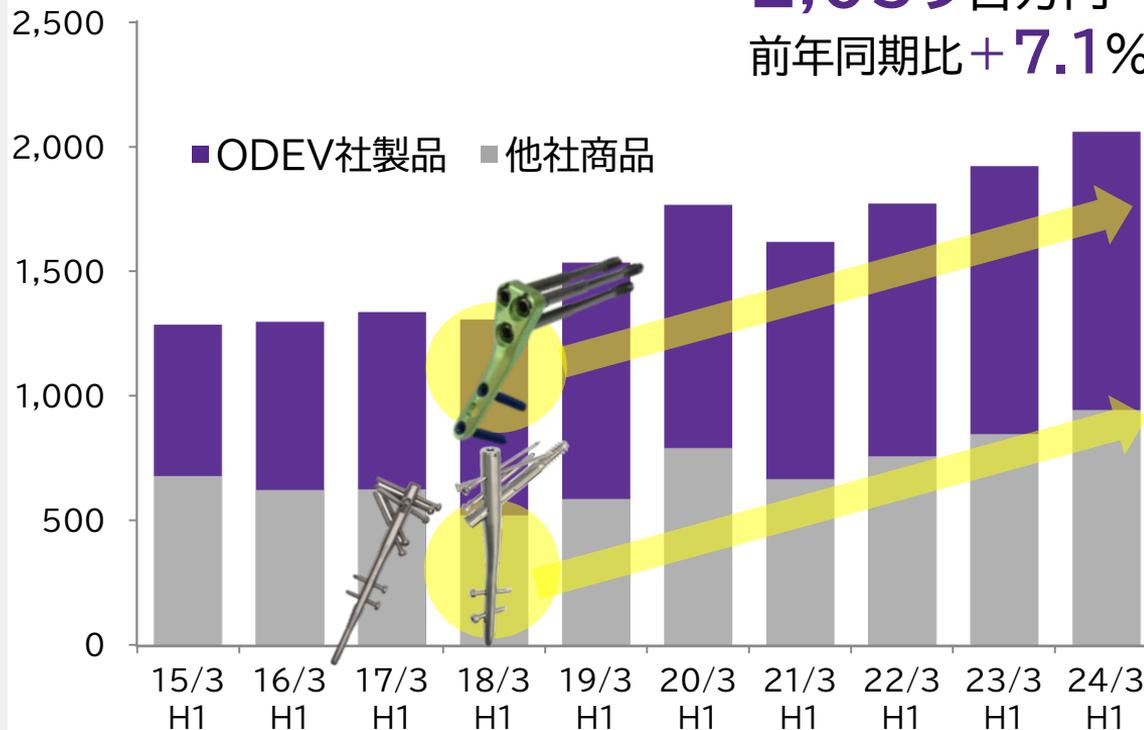
人工股関節 Entrada
人工膝関節 BKS TriMax

・新製品全国展開予定

SecuAlign HTO Plate
Promontory Stem

*1 Total Hip Arthroplasty:人工股関節置換術 *2 Total Knee Arthroplasty:人工膝関節全置換術

(単位:百万円)



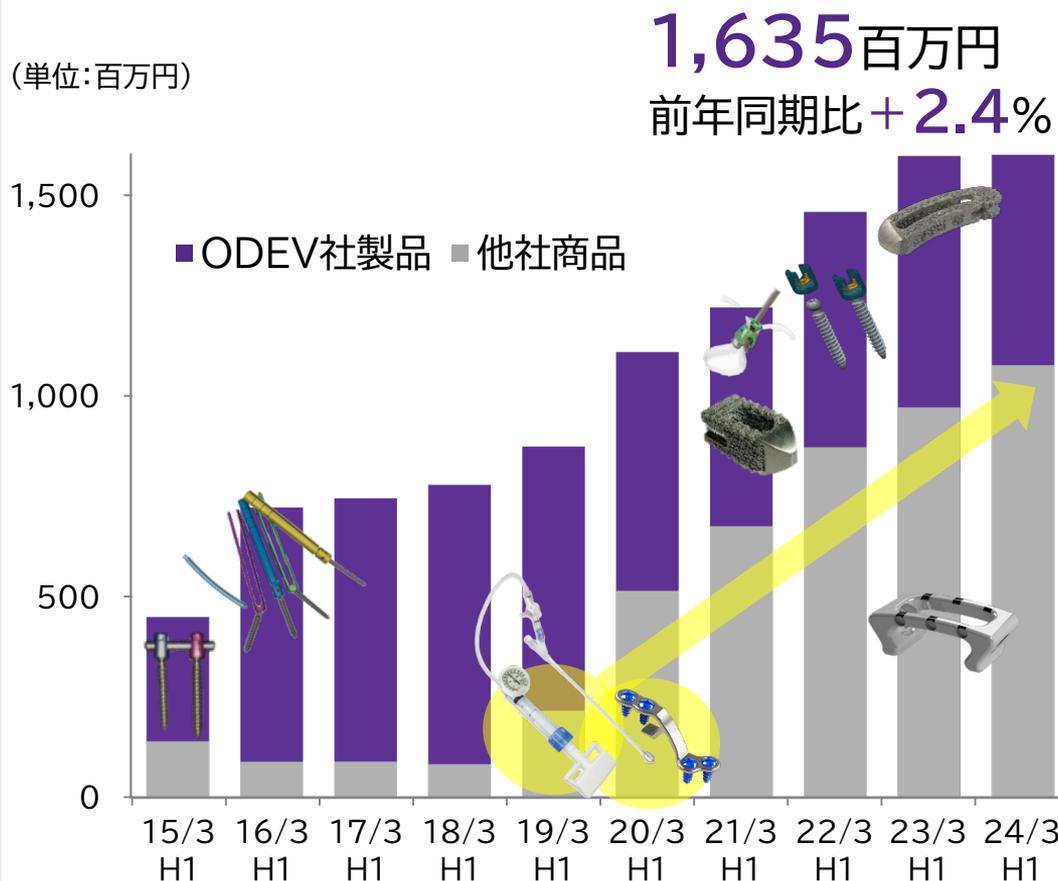
2,059百万円
前年同期比+**7.1%**

大腿骨頸部転子部
骨折治療材料

PHS/ASULOCK
2桁成長維持



(単位:百万円)



Lynx高成長 BKP再成長



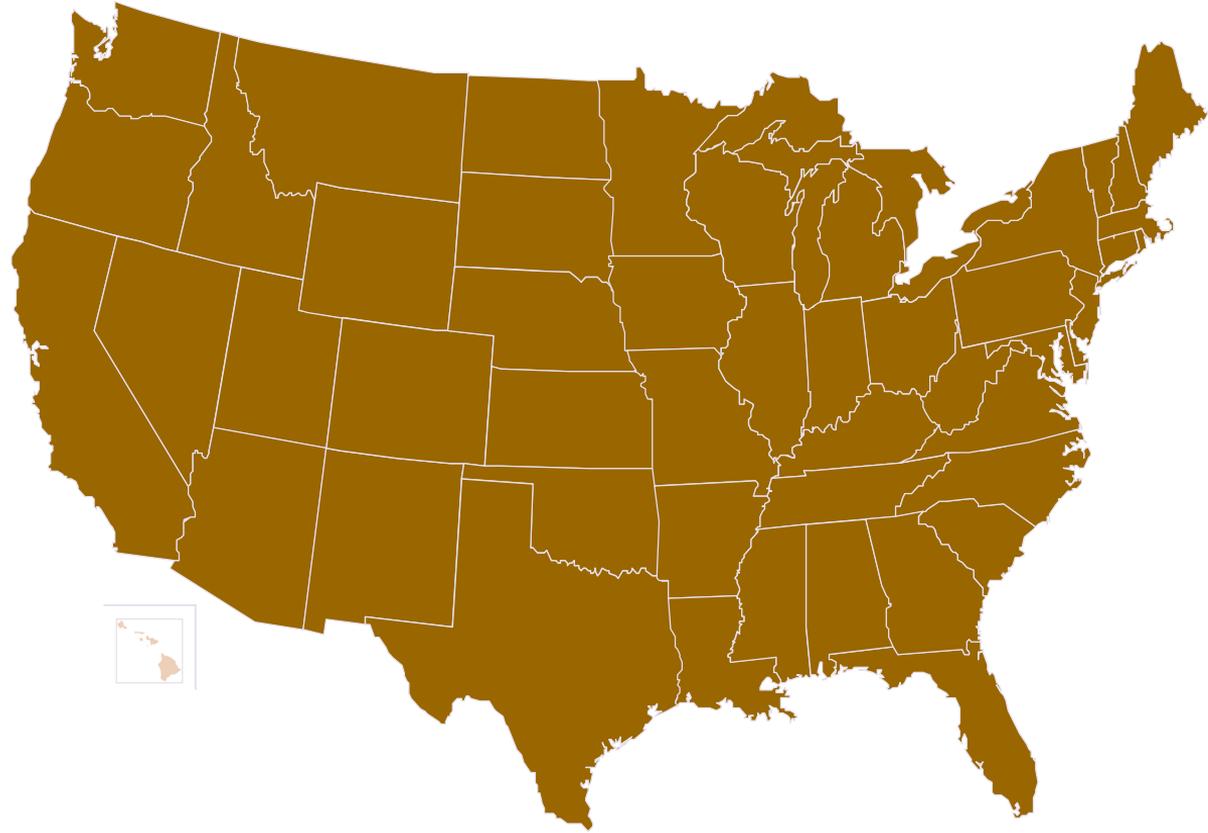
(KMC Kyphoplasty システム)

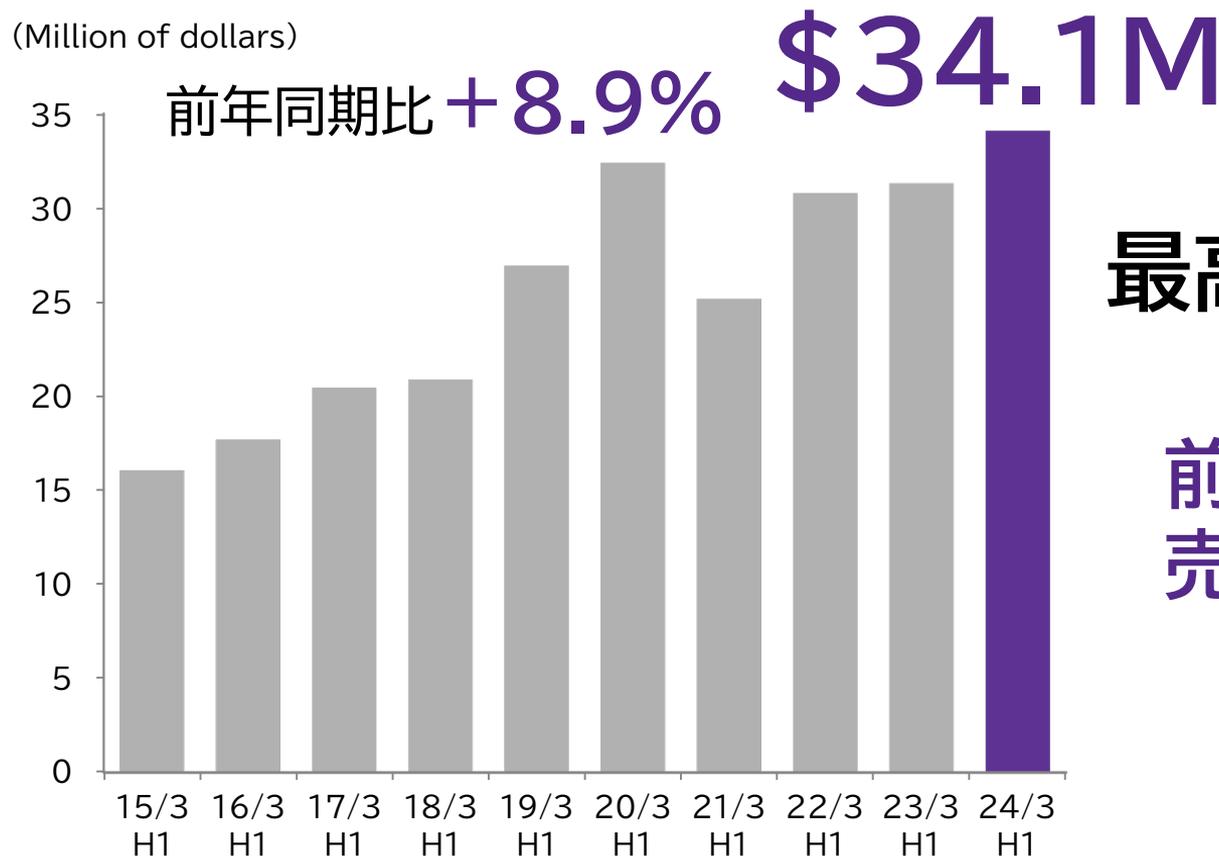


(Lynx Plate)



米国市場



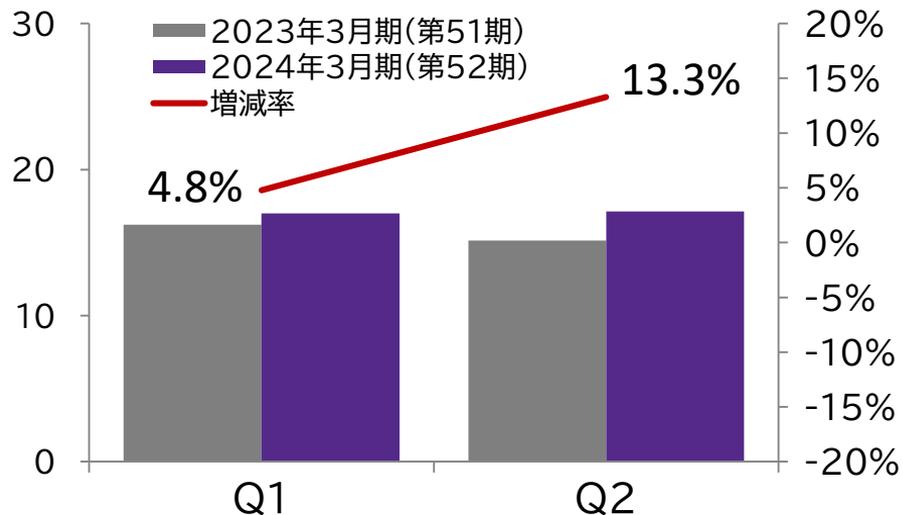


上半期
最高売上高更新

前年獲得顧客が
売上拡大に寄与



(Million of dollars)



会計期間	Q1	Q2	Q3	Q4
23.03	16.2	15.1	17.7	17.2
24.03	16.9	17.1	-	-
増減率	+4.8%	+13.3%	-	-

米国売上高堅調

Q2 > Q1

Q1:前年同期比 +4.8%

Q2:前年同期比+13.3%

UHKAS開催

隔年実施の自社セミナー(4月開催)

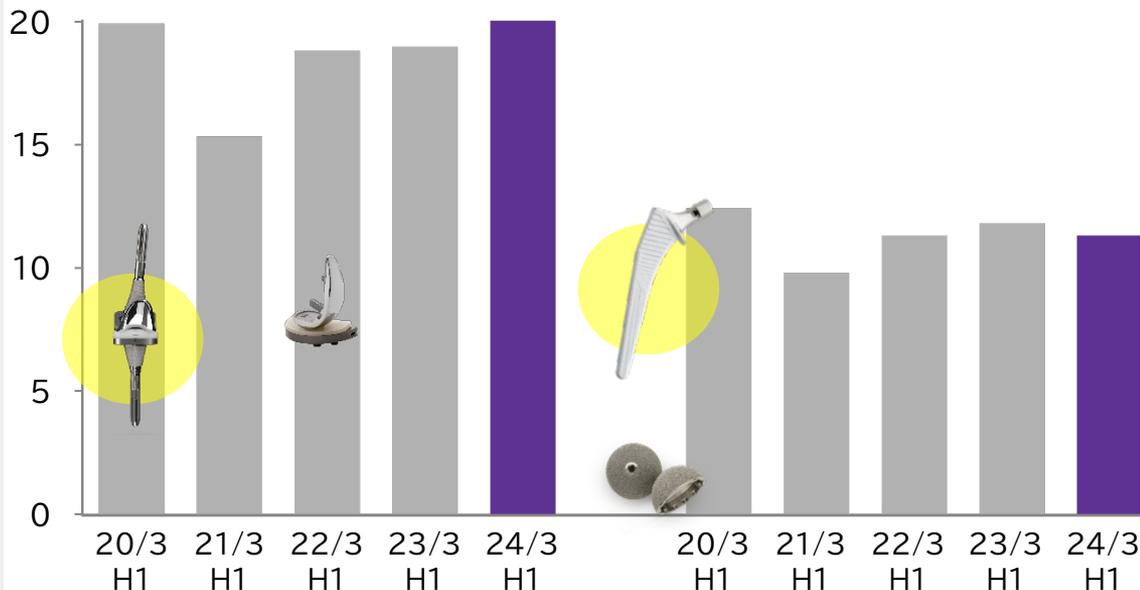




人工膝関節

人工股関節

(Million of dollars)



* DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く

人工膝関節

\$22.6M

前年同期比 +16.6%
(Q1+12.8%、Q2+20.6%)

既存製品2桁成長

- BKS TriMax
- BKS Revision Knee

新製品 α導入済み

- 新製品 BKS Uni
- 下半期に全国展開



人工股関節

\$11.3M

前年同期比 ▲3.6%
(Q1▲8.5%、Q2+1.6%)

既存製品 2桁成長

- Entrada好調
- 新製品 下半期導入予定





2.

2024年3月期 通期業績予想



通期業績予想値(前回予想vs今回予想)対比

日米共に売上前回予想減額、円安加速などにより営業利益を18億円に修正

(単位:百万円、%)	今回予想値		前回予想値増減		前回予想値	
	修正後 予想値	売上比	増減額	増減率	修正前 予想値	売上比
売上高	23,600	100.0	+300	+1.3	23,300	100.0
売上原価	8,450	35.8	+650	+8.3	7,800	33.5
販管費	13,350	56.6	+350	+2.7	13,000	55.8
営業利益	1,800	7.6	▲700	▲28.0	2,500	10.7
経常利益	1,850	7.8	▲550	▲22.9	2,400	10.3
当期純利益*	1,150	4.9	▲350	▲23.3	1,500	6.4

* 親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益比較分析(前回予想vs今回予想)

営業利益
▲7億円

- ・ 下半期想定為替レートを1USドル135円から150円に変更した為替の影響(▲2.4億円)
- ・ 売上減による粗利減(▲3.0億円)、原価悪化(▲3.3億円)
- ・ 販管費を抑制(1.7億円)

2024年3月期
前回予想

2024年3月期 前回予想 vs 修正 営業利益:増減分析(単位:億円)
備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記

2024年3月期
今回予想

25.0

▲2.4

▲1.2

0.0

▲1.8

▲3.3

0.8

0.8

▲0.9

1.1

▲7億円

18.0

前回予想比
+10.32円安

- ①製造原価悪化
・サプライチェーン問題
・調達コスト上昇(インフレ)
②自社製品販売比率低下
(▲1.4%、修正80.4%、当初81.8%)

新製品開発強化

新規採用
抑制

米国売上
増収

経費抑制

為替影響

JMDM
粗利増減

償還下落

ODEV
粗利増減

その他・
原価悪化

人件費

支払手数料

研究開発費

販管費
その他

粗利減
(▲3.0億円)

販管費抑制
(1.7億円)

【修正後通期業績予想】連結損益計算書（前年同期比）

前年同期比 症例増を見込むが
円安・サプライチェーン問題・償還下落により増収 減益となる見込み

(単位:百万円、%)	2024年3月期		前期比増減		2023年3月期	
	今回予想値	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	23,600	100.0	+2,292	+10.8	21,307	100.0
売上原価	8,450	35.8	+1,135	+15.5	7,315	34.3
販管費	13,350	56.6	+1,383	+11.5	11,967	56.2
営業利益	1,800	7.6	▲224	▲11.1	2,024	9.5
経常利益	1,850	7.8	▲193	▲9.5	2,043	9.6
当期純利益*	1,150	4.9	▲273	▲19.2	1,423	6.7

* 親会社株主に帰属する当期純利益

【修正後通期業績予想】主要品目別連結売上高

日米共に獲得症例増により全ての製品カテゴリーでプラス成長を見込む

(単位:百万円、%)	2024年3月期		前期比増減		2023年3月期	
	修正予測値	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上	13,100	55.5	+743	+6.0	12,356	58.0
人工関節	5,030	21.3	+291	+6.2	4,738	22.2
骨接合材料	4,610	19.5	+287	+6.7	4,322	20.3
脊椎固定器具	3,300	14.0	+114	+3.6	3,185	15.0
その他	400	1.7	+45	+12.8	354	1.7
小計	13,340	56.5	+738	+5.9	12,601	59.1
売上控除 *3	▲240	▲1.0	+4	▲2.0	▲244	▲1.1
米国売上 *1	10,500	44.5	+1,548	+17.3	8,951	42.0
人工関節	10,430	44.2	+1,519	+17.1	8,910	41.8
脊椎固定器具	70	0.3	+29	+72.7	40	0.2
合計	23,600	100.0	+2,292	+10.8	21,307	100.0
自社製品売上	19,160	80.4	+1,783	+10.3	17,377	80.6
USドルベース *2	72,254		+5,924	+8.9	66,330	

*1 期中平均換算レート(円/USドル)

145.32

+10.37

134.95

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除。

下半期の重点施策

日米共に注力製品の拡販、新製品による売上拡大を目指し、サプライチェーン問題の改善、外部ベンダーの見直しにより製造原価を低減する



- 大腿骨頸部転子部骨折治療製品の拡販
- 人工股関節(THA、BHA)製品の拡販
- 新製品の拡販
Lynxα プレート、Vusion Ti3D ARC ケージの拡販
- 販管費の抑制



- 新規顧客獲得による顧客基盤の拡大
- 人工股関節新製品の販売開始
- 人工膝関節製品の拡販
- 人工膝関節BKS Uni 全国展開
- 製造原価低減
サプライチェーン問題の改善
外部ベンダーの見直し
- 販管費の抑制



3.

Topic



Topic 再生医療分野(膝関節)に参入

膝関節早期治療製品 PRP-FD を医療施設に販売開始

PRP(多血小板血漿)とは？

- 採血した血液を遠心分離して、濃縮された血小板
- 本治療は、PRPに含まれる成長因子の力を利用して、人が本来持っている治癒能力や組織修復能力・再生能力を引き出す
- 痛みの抑制効果だけでなく、軟骨破壊抑止効果も期待できるほか、患者自身の血液成分だけを用いた治療であることから、免疫反応が起きにくい

製品名:LC-PRP
(Lyophilized Concentrated PRP)



2022年4月販売開始
「SecuAlign HTO プレート システム」



PRP市場参入のシナジー効果

PRPは単一治療のみならず、SecuAlign HTOプレート等、外科的治療とも併用されていることから、本製品を導入することで、当社膝関節治療製品とのシナジー効果が期待できる

PRP 治療の動向

- 本治療は、早期の膝関節痛やスポーツ外傷などの治療に使用され、市場は継続的に成長
- 当社が販売するPRP-FDは、特定細胞加工物製造許可を受けた 加工業者に PRP-FDの抽出作業を委託することにより、医療施設において PRP 治療開始に必要な投資、再生医療関連法規への対応等の負担軽減が可能であることから、導入する医療施設は増加傾向

最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、
医療に貢献する



日本エム・ディ・エム

JAPAN MEDICAL DYNAMIC MARKETING

お問い合わせ先

株式会社日本エム・ディ・エム IR室

E-MAIL

ir@jmdm.co.jp

IRサイト

<https://www.jmdm.co.jp/ir/>



ご参考



日本株ESG指数「FTSE」の構成銘柄に初選定

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に初選定

当社は、今後もサステナビリティに関する取組みを強化し、事業活動を通じて様々な社会課題の解決を実現していくことで、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexとは？

✓ グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されたインデックス

✓ 各セクターにおいて相対的に環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計

✓ 本インデックスは、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG指数として採用しており、ESG 投資のための代表的な指数のひとつ

FTSE Russell 【HOME > ALL INDEX > FTSE BLOSSOM JAPAN INDEX SERIES】
(<https://www.ftserussell.com/products/indices/blossom-japan>)

サステナビリティの取組み(2024年3月期)

区分	活動内容
サステナビリティ全般	<ul style="list-style-type: none">■ マテリアリティ(重要課題)の特定
環境 (Environment)	<ul style="list-style-type: none">■ TCFD コンソーシアム参画■ 国連グローバルコンパクトに署名■ 環境方針の策定■ TCFD (連結)GHG排出量削減目標の開示■ CDPスコアレベル「B-」評価
社会 (Social)	<ul style="list-style-type: none">■ 人権方針の策定・開示■ 多様な人材の活躍推進(キャリア・マネジメント・システム)の開示<ul style="list-style-type: none">・ 多様性の確保を含む人材育成方針、社内環境整備方針の策定・ ダイバーシティ&インクルージョン、人材開発の取組み
企業統治 (Governance)	<ul style="list-style-type: none">■ サステナビリティ委員会の開催(取締役会に報告)■ リスク管理委員会の開催■ コンプライアンス委員会の開催■ コーポレート・ガバナンス・コードの遵守

中期経営計画「MODE2023」進捗状況

(単位:百万円、%)	2022年3月期 (第50期)		2023年3月期 (第51期)		2024年3月期 (第52期)	
	実績/目標	百分比	実績/目標	百分比	予想/目標	百分比
売上高	19,193 /18,700	100.0%	21,307 /20,000	100.0%	23,600 /22,000	100.0%
営業利益	2,661 /2,700	13.9% /14.4%	2,024 /3,000	9.5% /15.0%	1,800 /3,500	7.6% /15.9%
経常利益	2,591 /2,650	13.5% /14.2%	2,043 /2,950	9.6% /14.8%	1,850 /3,400	7.8% /15.5%
当期純利益	2,135 /1,800	11.1% /9.6%	1,423 /2,000	6.7% /10.0%	1,150 /2,300	4.9% /10.5%
ROE(%)	10.7 /9.2		6.4 /9.5		4.9 /10.0	
ROIC(%)	7.9 /8.1		5.6 /8.5		4.9 /9.0	

* 中期経営計画「MODE2023」策定時の想定為替レート:108円

質問への回答

Q1 連結売上高における粗利率を以前の水準(65%~70%)程度に回復する見通し・取り組みを教えてください

短期的に回復させることは厳しい状況ですが、原価率低減の施策として以下の取り組みを進める方針です。

①米国(ODEV社)における内製化比率引上げ

5年ほど前から取り組み始め、当時は約15%ほどの内製化比率でしたが、新型コロナウイルス感染症前まで約30%に引き上げることができました。しかし、コロナ渦においては、人材の確保が難しいという背景があり、外部ベンダーに委託せざるを得ない状況であったため約25%まで低下しました。来年度以降は、再び内製化比率を引き上げる方向で取り組んでいきます。

②米国(ODEV社)における調達先(外部ベンダー)の見直し・多様化

当社製品は、インプラントの表面に特殊なコーティングを施す等の加工を外部ベンダーに委託しています。仮に外部ベンダーが1社しかいない場合に、委託先のコスト増をそのまま当社で吸収する必要があるため、外部ベンダーの見直しを進めていきます。また、多様化の面では、現在の主な調達先である米国・欧州だけでなくアジア地域から調達することも視野に入れております。

①、②共に、具体的な計画は次期中期経営計画(2024年5月頃発表予定)にて公表する予定です。

Q2 米国における内製化比率向上の取り組み(Q1の①)として、製造機械の増設や稼働率の向上を行う等の計画はあるか

当社製品のインプラントは、DMG森精機などの工作機械を用いて製造します。例えば現状保有する工作機械を24時間フル稼働することで内製化比率を向上させることが可能です。また、将来、内製化比率を上げるために必要な工作機械などへの追加投資もする予定です。

質問への回答

Q3 インフレが続く米国において、製造拠点を他国に移転する可能性はあるか

A 自社製造の拠点を他国に設置する予定はありませんが、アジア地域での製造(委託)拡大を検討しています。

Q4 日本における市場環境について教えてください

■ **新型コロナウイルス感染症の5類移行の影響**

上半期は7-8月頃に症例数が増加しましたが、9月には落ち着いてきたことから、下半期は5類移行による大きな症例数の伸長はないと想定しております。

A ■ **2024年4月から開始予定の「医師の働き方改革」の症例数への悪影響の有無**

「医師の働き方改革」により、整形外科の急性期(骨折)患者や慢性疾患(人工関節、脊椎固定器具での治療が必要となる疾患)の患者さんの数が減少するわけではありませんので、症例数に大きな悪影響はないと想定しています。

Q5 米国における市場環境について教えてください

■ **高額な民間医療保険の抑制(保険会社、加入者双方)の動きによる「日帰り手術」の増加**

近年、米国において日帰り手術を行う患者さんが増加傾向にあり、当社の米国売上のうち日帰り手術向けの比率も増加傾向となっています。また、日帰り手術を行う医療施設は医師個人が経営する小規模の医療施設が増加傾向にあり、利益確保のために、当社製品を含め治療材料に対する価格下落圧力が強まっています。

A これら、医療施設からの価格低減要望に応えるためにも、治療価値の高い治療材料の開発に加え、更なる製造原価の低減を実現する必要があります。

質問への回答

Q5 米国における市場環境について教えてほしい(続き)

A

■ 高額なロボット手術導入について

当社は自社での手術用ロボットを開発しておりませんが、当社インプラントを使ったロボット手術のニーズもあるため、Think Surgical社と業務提携し当社インプラントを使ったロボット手術に対応しています。
また、Think Surgical社から新型小型ロボット手術システム「THINK Surgical TMINI」が当社インプラントに対応することとなり、米国におけるロボット手術ニーズへの対応を強化しています。